

支部長挨拶

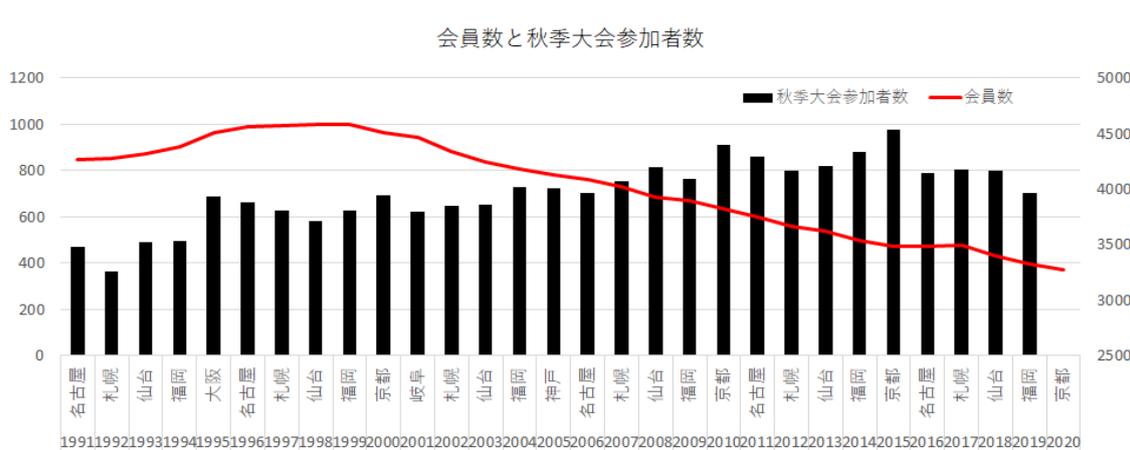
日本気象学会北海道支部 支部長 稲津 将

さあ、この秋、札幌に全国大会がやってきます。

支部長である私、稲津が大会実行委員長、幹事長である佐藤友徳先生が事務局長として昨年早々に大会実行委員会を組織し、昨年末に会計・会場・懇親会など役割分担が決まりました。大会実務にあたられる北海道大学、札幌管区気象台、日本気象協会北海道支社、および酪農学園大学におかれましては、多くのご負担をおかけすることになりますが、大会成功に向けて一致団結をいただければ幸いです。

秋季全国大会は、1977年以來5年周期が守られており、5で割ると2余る西暦年に札幌で開催されています。札幌は人気なので参加者数も毎度、多いとおもっていたのですが、調べてみますと、必ずしもそうではなく、むしろ少ない方であることがわかりました(図)。参加者数最多となるのは京都で開催されたときのように。ここ30年の傾向として参加者数は右肩上がりで、コロナ直前の実績では800名前後です。一方、会員数は右肩下がりです。以上より、会員活動が活発になっているというポジティブな帰結と、一人あたりの大会運営コストが増しているというネガティブな帰結が導かれます。本大会では民間業者に相当量の大会運営を委託しておりますゆえ、ネガティブなところは何とか抑えて、ポジティブなところを目立たせるように努力したいところです。

大会実行委員長、最初のお仕事として、てるてる坊主を飾り、当日の好天を願うことといたします。



図：1991～2020年の日本気象学会秋季大会の参加者数(棒グラフ、左軸で単位は人)と各年度末における会員数(線グラフ、右軸で単位は人)。日本気象学会機関誌「天気」より、私調べ(参考文献、多数のため、省略)。